

株式会社ジチタイワークスが主催するWEBセミナー

「備え」×「緊急対応」～災害の激甚化・頻発化への対応に必要なこと～に登壇しました。

2023年9月25日(月)に株式会社ジチタイワークスが主催するWEBセミナー『「備え」×「緊急対応」～災害の激甚化・頻発化への対応に必要なこと～』にて、当社は【災害発生による通信障害に備える重要性とその方法】をテーマに講演しました。



The banner features a background image of a person pointing at a map on the left and a construction worker in a yellow safety vest on the right. The central text is overlaid on a white banner with a blue and red design.

防災関連 ご担当者様
ジチタイワークス (株) オンラインセミナー

参加費 無料

備え × 緊急対応

— 災害の激甚化・頻発化への対応に必要なこと —

複数自治体 登壇予定!

9月25日(月)・26日(火) 13:30~16:30 (Zoom)

ジチタイワークスWEB：<https://jichitai.works/>

当社は本講演で、自治体における災害対策の中で通信に関して、過去の災害を通して分かった必要性和今できる対策についてご紹介しました。

2011年の東日本大震災翌年総務省が3月に行った「災害時における情報通信のあり方に関する調査」で、当時のTwitterをはじめとしたSNSは情報受発信において有効だったと言及されています。実際、東日本大震災時のTwitterのツイート数、フォロワー数にも表れており、情報の発信と収集の手段どちらにおいても、テレビやラジオなどの旧来の媒体だけではなくTwitterが非常に多く使われましたことがわかりました。

災害時のインターネット活用

1. 緊急通報の受信
2. 災害情報の収集
3. 安否の確認
4. 道路交通網等の最新情報の収集
5. 救急・医療もネットで提供できる可能性

普段使いの必要性

非常時のみ使用する場合、想定されるトラブル

- ・ 使い方に慣れていない
- ・ 事前の確認ができない

活用されなかった設備・備蓄の教訓

「フェーズフリー」



台風被害時、周知が徹底されず
活用されなかった設備の例
2019年 千葉県・備蓄発電機 100台超
2022年 静岡県・災害用貯水槽

いざというときにきちんと活用するため「日常」と「非常時」とを切り分けず普段使っているものが備えになるという「フェーズフリー」の考え方を踏襲した事例についても紹介しています。

講演資料ダウンロード: https://bit.ly/20230925_JichitaiWebinar_DL

普段使いできる災害用ルーター スカイベリーpro: <https://skyberrypro.jp/>

また同調査では、このようなSNS活用の状況を踏まえて通信インフラの重要性も改めて認識され、携帯電話をライフラインの一つとして重要なアイテムとしてとらえている人が25%を超えているのに加え、通信インフラの信頼性・冗長性の確保、通信手段の迅速な復旧・整備、という要望も10%を超えている、と報告されています。

また、近年は、当時よりさらにインターネット活用の範囲は広がっており、情報収集のみならず、国や自治体からの緊急通報の受信や安否確認、医療情報取得などにも広く活用されており、電源確保と同等かそれ以上に、通信インフラの可用性、信頼性、冗長性の確保が重要視されています。

そのため、自治体におけるBCPにおいて、通信を途切れさせない、途切れてしまったとしてもすぐに復旧し、業務を再開するために、堅牢な通信手段を確保しておくことは非常に重要です。さらに、いざと

<本件に関するの問い合わせ先>

a2network 株式会社 広報・マーケティング部

Tel: 03-6417-0788

Email: contact@a2network.jp